

卒業式の定番ソングは明治生まれ!?



まなびや

文部省唱歌一八八一(明治14)年(原曲スコットランド民謡)

♪蛍の光(蛍)

唱歌教育のはじまり

「唱歌」は、一八七二(明治5)年の「学制」発布により、小学校14番目の教科として登場しました。欧米の教育制度にならったものの、当時は教える先生もおらず、教材や設備も不足していました。「学制」には「当分のヲ欠ク」と但し書きがあり、実際に授業が行われることはありませんでした。

日本初の音楽教科書

小学校での唱歌教育実施に向けて、一八七九(明治12)年に文部省直轄の音楽教育・研究機関として「音楽取調掛」(現東京芸術大学音楽学部)が設置されました。校長であった伊澤修二は、一八八一(明治14)年から、我が国初の音楽(唱歌)教科書『小學唱歌集』全三編を順次編纂・発行しま



小學唱歌集 初編 1881(明治14)年

した。この当時、幼稚園や小学校で歌われていた曲の多くは、西洋の旋律に日本語の訳詞を無理にはめ込んだ、ぎこちない歌でした。また、歌詞が文語体のため子どもたちには歌いにくいものでした。

蛍の光(蛍)

「蛍の光」は、スコットランドの民謡「オールド・ラング・サイン」を原曲として一八八一(明治14)年尋常小学校の唱歌として、小學唱歌初編が編纂されたとき、「蛍」の題名で採用された曲です。

一番…蛍の光、窓の雪(略)
二番…止まるも行くも、
限りとて(省略)

三番…筑紫の極み、陸奥の奥、
海山遠く、隔つとも、
その真心は、隔て無く、

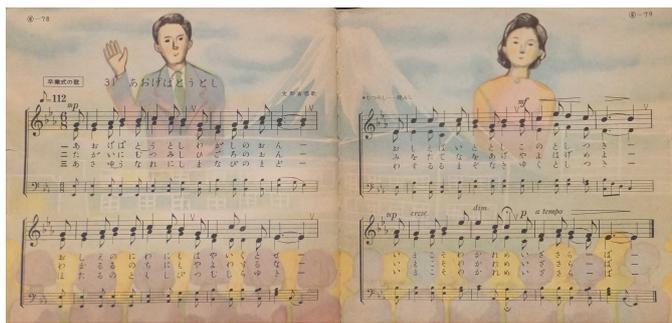
文部省唱歌一八八四(明治17)年(原曲アメリカ民謡)

♪仰げば尊し

一つに盡くせ、國の為(たゑ) 四番…千島の奥も、沖繩も、八洲の内の、護りなり 至らん國に、勳しく、 努めよ我が兄、恙なく (四番は、明治初期↓日清戦争↓日露戦争など領土拡張により何度か変更されています) 海外で生まれた「蛍の光」。しかし、そのメロディーは、日本の伝統的な音楽と同じ特徴を持っていました。日本の伝統的な音楽では、よく「四七(よな)抜き音階」が使われている(ドレミを番号に置き換えると、4番目のファ、7番目のシを欠いている)のですが、「オールド・ラング・サイン」のメロディーも、この四七抜き音階になっているのです。

仰げば尊し

「仰げば尊し」は、「蛍の光」の他にもう一つ卒業式の式歌としてふさわしい歌を、ということに加えられたそうです。原曲は長年アメリカ民謡で、原詞・原曲は不詳とな



おんがく 6 1960(昭和35)年度用：教育芸術社